平成30年10月１日発行

第　22　号

カット：石森幸子（29年入学）

会　報

東北大学教育学部
同窓会東北支部

教育学研究科の新組織について

教育学研究科長・教育学部長　工　藤　与志文

今年度より教育学研究科の新組織がスタートしました。今回の組織再編の一つの目的は、今年度より現代の教育学研究教育的課題に対応できる体制を整えることです。そのため、「教育情報学研究部」との組織統合を行い、近年発展が著しい教育情報学分野を強化して、ICTの教育への応用などについて専門的に学べる「教育情報アセスメントコース」を設置しました。また、社会のグローバル化によって生じる教育的課題に対処するため、グローバル・ラーニングセンターといった学内組織の協力を得て、「グローバル共生教育論コース」を設置しました。一方、「臨床心理学コース」では日本初の心理学の国家資格である「公認心理師」取得が可能となるよう、学部も含めてカリキュラムの整備を進めました。

このように教育学研究科は、これまで以上に社会情勢や教育に対するニーズの変化に対応できる体制を整えつつあると考えています。その一方で、教育学の博士号を取得できる数少ない研究科の一つとして、本研究科の社会的使命の中核が研究者養成であることは、いささかも変わるものではありません。もちろん、時代の変化や要請に即応した形で研究教育を進めることと、教育学・教育心理学といった基盤となる学問分野の研究教育を地道に進めることの間に矛盾があるわけではありません。しかしながら、それらの方向性が常に一致するわけではないことに留意する必要もあるだろうと私は考えています。両者のバランスをとりながら、いかにして次世代を担う研究者を養成していくか。本研究科の今後の展開において、きわめて重要な課題になるであろうと考えています。

まずは新研究科のスタートを温かく見守っていただければ幸いです。これまで同様、東北大学教育学部・教育学研究科に対するご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成30年度　総会のご案内

平成30年度の東北大学教育学部同窓会東北支部の総会を下記の通り行います。皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

記

１．日　時　平成30年11月10日（土）午後１時
２．会　場　東北大学文系総合研究棟大会議室
３．日　程
　午後１時～　総　会
　午後１時50分～
　　講演会「比較教育学を目指して：英国のエアリアスタディを中心に」
　　懇親会　•会費（5千円）、当日お納め下さい。
４．講　師　宮腰英一氏（9頁 講師プロフィール参照）
５．お願い　同封の返信用葉書にて参加のお申し込みをお願いします。
　　10月31日（水）までにご投函下さい。

天国と地獄（1）

同窓会仙台支部の誕生

――生みの苦しみとよろこび――

富塚　英雄（24年入学）

戦後、東北大学教育学部が発足し、これが安定してきた昭和30年過ぎ、同窓会を結成しようという機運が全国に生まれた。同窓の人材が活躍する関東では、関東支部が生まれ、結成の会を催したが、当初なかなか意気が上がらなかった。

そんな折、今は亡き塚本哲人先生が、１期生を中心に、仙台支部発足を提案された。母校のひざ元で活躍する１期生が支部を結成するのが活性化への有効な第一歩と考えたのであろう。

先生は、１期生中一番年嵩の三浦を中心に、志村、岩淵を呼び、仙台支部の具体案を練らせた。三浦・志村・岩淵は、当時、新設校（古城小）の教頭だった私を説得して同窓会の事務担当を引き受けさせた。確かに私は多忙な公務のなか、時間も自由。事務機器の使用も融通がきいた。事務局を受諾し、私は皆の意向を受けて、会規約・発会の準備、動員と広報など、雑多な要務を１人でこなすこととなった。

開会式までの半年間、私的な時間はほとんどなかった。教頭としての本務を持ちながら、一つのプロジェクトを１人で責任を持つということの大変さは、さながら地獄であった。

しかし、児童文化部や倶連会他、多くのサークルや同窓諸兄姉の協力によって、膨大な事務量は片付き、開会式への動員も200名を超えるなど目覚ましい成果が上がった。準備期間の鬱々たる日々を思うと、思いがけない友人たちが寄せる絶大な協力はすべてを救ってくれた。良き思い出である。

カット：石森幸子（29年入学）

天国と地獄（2）

少年院のアルバイト

多田　昭子（26年入学）

教養部の二年間は、北七番丁校舎に通った。小学校課程だったので、友人に誘われ児童文化班に入部した。ペープサートの考案者の方を東京からお呼びし講習を受けて練習した。授業の合間に部室に通い、人形劇・紙芝居など先輩に手ほどきを受け練習、先輩の勤務校に行き子ども会などもした。

一年の時の夏休み、事務室の方から、東北少年院でアルバイトを募集しているから行ってみないか、と声をかけられた。児童文化班の同級生と二人で行くことにした。年度末の予算消化のためのアルバイトだったらしく、他学部の男子学生なども来ていた。私たちは、年少の子どもたちを収容している「緑寮」に配属された。「やさしいお姉さん」として、子どもたちに接し、よい遊び相手になってほしいとのことだった。

寮に行くと子どもたちが居住する場所の入口は鉄格子で施錠されていて、入室する度に解錠するのだった。真中に広い廊下があり、食堂にも集会所にもなる。両側に個室があり、窓に鉄格子。数人のグループで住んでいた。学習・労働作業などスケジュールが決まっていて、一緒に過す時間は限られていた。合間に個室を訪ねたり、童謡や遊戯ゲームをしたり、紙芝居やペープサートなどをしてそれなりに楽しい時を過した。

十数年経って、上杉小に勤務していた時、堤通で一人の青年に声をかけられた。少年院出身は隠して働いているということだった。よく覚えていてくれたと感動した。

また別の時、少年院のバイトをきっかけに法務局勤務を誘われたことがあったが、お断りした。法務局勤務を選んだら、どんな人生を送ったのだろうと思う。

天国と地獄（３）

時空のかなたより

安部　悦子（28年入学）

佐久の山村での疎開学童だった頃、夜毎先生の座卓の周りで戦果を聞いたり軍歌を歌ったりした。親元を離れて沈みがちな子供たちを元気づけようとの担任の配慮だった。

「春真っ先に大マニラ　陥して更に－－－」

脳裏に潜むそれらの地名への躊躇を抱えたままルソン島の南端からミンドロ島へ渡った。

東北大学の文化人類学のゼミの有志の手も借りて、子供たちとのコラージュの共同制作、が目的だった。ジャングルの奥に住む先住民族「マンギャン」は、第二次大戦時に密林に逃れたまま暮らしやすい低地をタガログ人に奪われ、焼き畑や採集での歳月を余儀なくされた。爾来教育や文明から見放されたままだった。近年マニラのブキッド財団の援助で学校が設立され、新しい時代に適応できる次世代の育成が始まっていた。

子供たちの表現意欲の他は何も無い教室で鋏・定規・消しゴムや使いかけの鉛筆など、在職の友人が空き箱にぎっしり詰めて持たせてくれた「美術室の忘れ物」のがどれほど役立ったことか。

雑誌の色刷りページや色紙、小麦粉を練った糊と食材とを持って、乾期の山道の難路をジープで到着。ここで現地の子供たちにとっては初めての『図工』の授業を試みた。

バナナの葉を敷き並べ、食卓とお皿をかねたやしの葉に盛り付けたカレーライスの給食等。その夜の懇親の会は盛り上がったが、最後の集会で老いた村人の一人が発言した。「戦争の末期、日本兵が廃残の絶望と飢餓の末に祖父を-------。」いま、私はそれを文字にすることは到底出来ない。最後に彼は「でもここに来た日本人はみんないい人達だからもう忘れたよ」と。老人の寂しい笑顔は今も忘れる事は無い。

天国と地獄（４）

闘病と自己の実現

高橋　正毅（31年入学）

人生には、さまざまなことが生起する。私は、20代の頃から教職を離れ、塾経営や実業の方向に舵をきり、60過ぎには病院経営に乗り出した。すべては順調であった。

ところが、８年前に右大腿部脂肪肉腫なる難病が見つかり、難易度の高い、高度な手術は成功したが、５年後に再発。病態はいよいよ深刻で、障害者手帳も下付され、寝たきりも視野に入れ、身体障害者として生きてゆく覚悟を決めた。

私は、こうした悲観的な観測や絶望的な状況に屈することなく、自分の意志と決断で、独自のリハビリを行うことに決めた。

室内歩行器や室内自転車などあらゆる機器を買い入れ、自宅でのリハビリを始めた。毎日、歩行器は１日１時間（4.5km／h）、室内自転車は１日１時間半（24ｋｍ）励行した。

勿論、日常の経常的な実務は、以前と同じように進めた。不動産の賃貸、株式の売買による利殖、病院の経営については、本気で取り組んだ。

法律の実務に即した研究、株式の情報収集は、徹底して勉強してきたので、これまでも弁護士・公認会計士・税理士に殆ど頼ることなく、経営や日常の財務・法律に係るすべての問題を自力で解決してきた。こうした意欲と信念こそが、苦境から至福へと運命を転換する魔法の鍵である。

現在、体調は回復し、週に４日ほど、事務担当責任者として、自ら経営する病院に勤務している。この病院の院長であり医師である息子は、終始、私の健康を気遣ってくれ、父子仲良く、人様の健康・福祉に尽くすことができる人生は、誠に幸せである。

カット：石森幸子（29年入学）

天国と地獄（５）

改革に奔走した現職時代

桝澤　　怜（31年入学）

私は、どのような状況に置かれても悩むことは少ない性格である。現職中は現状を分析し、必要とあらば、改革を提案し、具体策を講じてきた。したがって、日常の不満が少なく、ストレスも受けにくかったと思う。教職の職場は、地域・保護者・生徒から陰に陽にストレスを受けやすい環境にある。何か問題がある場合、会議を開き、問題を抽出し、良き方向に向けての改革案を提案し、具体的に進めるように取り組んできた。

私が実際にかかわった事例として、約50年前、公立のＡ小学校在職時代、職員の出勤時間の問題を解決したことが思い出される。

この学校は８時20分出勤、朝の打ち合わせがあったが、若い先生方には毎朝子どもを保育園にあずけるタイトな時間帯に当たっていた。８時30分出勤に改善することは容易なことではなかった。職員会議で提案してみたが、「30代発言権なし！」と先輩から檄を飛ばされる始末。しかしめげずに頑張り説得して変更できたことである。

また、午前の中間に休憩時間が15分しかなく、子供はのびのびと遊ぶことができない状況におかれていた。これを普通の学校のように25分または30分に変更する提案は３年がかりでようやく実現できたことも忘れることができない。

学校は、地域・保護者の協力が大切である。施設貸与などは率先して協力し、Ｂ校では学区民運動会の校庭での開催復活・同窓会の新設、Ｃ校では冠婚葬祭時の駐車場の貸与・性教育研究指定校の成功等々、常に地域・保護者・教職員・児童生徒の幸せを第一に考え、意識的に不都合な現状を打破し奔走してきた人生であったと思う。

天国と地獄（６）

試験の天国と地獄

軍司　　啓（39年入学）

入学試験を何とか潜り抜け、大学生になり六如寮での生活が始まり、寮と川内の教養部の間を真面目に行き来したのも１か月余、友達もクラス・寮・部活で徐々に増えるとともに学校以外の生活も日ごとに忙しくなり、川内へ向かう日と時間があっという間に減り、たまに出かけても、代返の確認と各種打ち合わせが主になりました。頼まなくても代返してくれる友達に感謝しているうちにあっという間に夏休みが来ました。

何故か家に帰りたくて部活の遠征も無視し家に帰りました。（結局、２か月家で過ごしました。）

でも、10月に試験があることへの対策は怠りませんでした。

数学のＳ先生は、試験問題を出してくれてあったので、解いてみました。勿論授業に出ていないので解けるはずもありません。

そこで、出身校へ出かけ数学の先生に解いてもらいました。これでＯＫ天国気分でした

授業が始まった時にクラスの悪友どもに見せびらかしました。そのうちの一人が１週間ほど前になり、ノートを貸してくれとの申し出に、気前よく貸しました。勿論すぐに返してくれるものと勝手に思い込んでいましたが、試験当日にも返ってきませんでした。

当然、自分で解いてないので解けるはずもありません。結果は追試という地獄へまっしぐらでした。（世の中甘くない・・・）

カット：石森幸子（29年入学）

天国と地獄（７）

櫛風沐雨（シップウモクウ）アリテ初メテ三省ス

吉川　邦彦（50年入学）

教諭を19年勤めた後、県センターの指導主事となった私は、行政に４年間いて、意気揚々かつ「オレがオレが」のまま公立校の教頭となった。今にして思えば、行政の上意下達に慣れていたこともあり、自己の立ち位置や校長を支える教頭の在り方が掴めなかった。後悔先に立たずである。遅くまで残業をやらされているという被害者意識も、教職員を十分思いやれなかったことも、東北大マスター出身という中身のない看板のせいだった。当時はひどく苦しく、左耳が難聴になって十分寝られず、かかりつけの医者に睡眠薬等もらっていた。

そんな私がほっとできる気持ちになれたのは、別の勤務地で、尊敬できる、校長先生や教職員にお会いしたからである。うつ気味のぱっとしない教頭を、我慢しながら育てて下さった。組合員も多くやりにくい時もあったが、先生方始め、個性に富んだ生徒・事務長さん・業務員さん・町内会長さん等多くの人によくしていただき、勤務しながら心の回復が図れたのだろう。また、センター教育相談班出の私と同じ班出身の生徒指導主事さんがおり、心に関わる多くの研修会で学ぶ機会を与えて下さったこともその一因だろう。夜遅く帰宅する際、彼から教えられたとおり、「ああ、今日もいい一日だった」と言って、星空を見つめながら帰路に就く毎日であった。

これが本当に地獄・天国かと問われても、分からない。良し悪しの偶然を述べる「塞翁が馬」は、だから何もするなという説であるが、少々無理した結果「今日の味噌汁ほんとにうまいなあ」と言える自分でありたいと、還暦を過ぎた今でも思っている。

天国と地獄（８）

東日本大震災での支えあい

岡本　章子（58年入学）

2011年３月11日14時46分の「東日本大震災」。当時私は市議会にいて、ジェットコースターのような揺れの後「10m規模の大津波警報」を聞き、一体何が起きているのかと恐怖に慄かずにはいられませんでした。

地元地域はマンションが多い地区であり、停電や断水で600名予定の避難所には3,000名もの方々が押し寄せました。すぐ支援活動を行いましたが、皆さん体育座りで横にもなれず、その晩食事はおろか毛布も４名に１枚しか渡せない状態。停電の真っ暗な中ラジオからの津波報道に怯える一方、雪の中星空が異常に美しかったのを記憶しています。

津波で私も知人を数人失い、瓦礫の山を押しのけながら沿岸部に足を運びました。また何人もの友人が家族の安否確認で遺体安置所を巡り歩く姿を見ました。まさに地獄図そのものです。

笑顔で会話をする家族や友人がある日突然居なくなることを経験し、当たり前の日常、特に家族との日々がどれだけ大切なのかを改めて感じています。また大変な時だからこそ「お互いに支えあう」ことの大切さを実感しました。

当時支えあう一役を担ってくれたのは中高生たちでした。在宅高齢者のいる１軒１軒に支援物資を届けたり、高層階の階段を上がって安否確認してくれたりです。大人だけなく子どもたちも頼りになる大きな存在だということを頼もしく嬉しく思ったものです。

私は今国会議員の仕事をしていますが、いざという時もお互いに支えあう社会、次代の子どもたちに希望ある社会を創りたいと決意した大きな機会にもなりました。

平成29年度　仙台支部事業報告

顧問会・監査会
29年３月30日（火）
午前10時00分～
会場：文系総合研究棟

協議事項
①役員補充について
②平成29年度第38回総会時講師について　③その他
④平成28年度会計監査

第１回支部役員会
29年５月13日（土）
午前10時～
会場：文系総合研究棟
306教室

報告事項
①平成28年度仙台支部事業報告・会計決算報告

協議事項
①平成28年度仙台支部事業報告・会計決算報告の承認
②平成29年度東北支部事業計画・支部会計予算案
③平成29年度第37回総会時講師について
④平成29年度東北支部総会について　⑤「会報21号」発行について
⑥役員改選（事務局・年度理事改選）について
⑦東北支部での会員増について　⑧その他

第２回支部役員会
29年８月19日（土）
午後10時00分～
会場：文系総合研究棟
306教室

協議事項
平成29年度東北支部第１回（仙台支部第38回）総会について
①講演会講師・演題の確認　②総会・講演会・懇親会における理事の役割分担
③第３回支部役員会における理事の役割分担　④その他（各委員会～）「会報21号」発行

連絡事項
①支部総会案内状・会報・会費納入振替用紙等の発送事務10月７日(土)
②第３回支部役員会の日時と協議事項・連絡事項

教育学部同窓会東北支部
第1回（仙台支部第38回）
29年11月11日（土）13時～
会場:文系総合研究棟大会議室

総　会
①平成28年度事業報告及び会計報告について
②平成28年度会計監査報告の承認について
③平成29年度事業計画及び会計の中間報告について

講演会
講師・演題　佐々木徹郎氏「教育学部の歴史」

懇親会
（会場　ブッシュクローバーカフェ　15：15～17：30）

第３回支部役員会
30年１月６日（土）
午後５時～
会場:ホテルJALシティ仙台

報告事項
①東北支部第1回（仙台支部第38回）総会会計報告
②平成30年度東北支部事業・支部会計中間報告

協議事項
①東北支部第１回（仙台支部第38回）総会の反省事項
②平成30年度東北支部事業計画・会計予算案について
③役員会・総会の持ち方について
④東北支部第２回（仙台支部第39回）総会日時の確認

平成29年度 東北大学教育学部同窓会東北支部会計決算報告

平成30年３月31日

Ⅰ　一般会計

1．収入の部

（△ 予算額との比較減　単位:円）

	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
会費	260,000	306,150	46,150	会費274名分
繰越金	285,246	285,246	0	前年度繰越金
雑収入	254	28,001	27,747	懇談会祝儀、利子等
合計	545,500	619,397	73,897	

2．支出の部

（△ 予算額との比較減　単位:円）

	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
事務局費	100,000	109,407	9,407	
①印刷費	60,000	69,976	9,976	印刷、コピー代等
②消耗品費	10,000	5,805	△ 4,195	用紙、インク代等
③備品費	2,500	7,380	4,880	文具、ソフト代等
④事務手当	25,000	25,000	0	事務手当
⑤雑費	2,500	1,246	△ 1,254	送金料、印字代等
会費振込費	30,000	25,030	△ 4,970	会費振込手数料
会議費	50,000	40,337	△ 9,663	役員会他
通信連絡費	100,000	62,932	△ 37,068	総会、役員会案内等
会報費	75,000	73,720	△ 1,280	
①印刷費	65,000	63,720	△ 1,280	会報印刷代
②会議費	10,000	10,000	0	会報委員会会議費
総会費	60,000	35,000	△ 25,000	
①会場費	20,000	0	△ 20,000	会場使用料
②表示関係費	5,000	5,000	0	演題、看板等
③装飾費	5,000	0	△ 5,000	
④講演会費	30,000	30,000	0	講師謝礼、車代
慶弔費	10,000	0	△ 10,000	弔電代等
雑費	10,000	987	△ 9,013	手土産代等
予備費	110,500	0	△ 110,500	旅費、卒業祝賀会会費
運用基金	0	0	0	
合計	545,500	347,413	△ 198,078	

※収入総額619,397円－支出総額347,413円＝差引残高271,984円は、次年度繰越します。

Ⅱ　運用基金

前年度繰越900,000円＋収入０円＝差引残高900,000円（次年度へ繰り越します。）

会　計　監　査

平成29年度東北大学東北支部の会計決算にあたり、通帳・会計出納簿・領収証を点検したところ適正に処理されていたことを報告いたします。

監事　吉野信武　印
監事　井本佳宏　印

平成30年度　東北支部事業計画(案)

顧問会・監査会 30年３月31日(土) 午前10時00分～ 会場：文系総合研究棟	**協議事項**	①役員補充について ②平成30年度第２回総会時講師について　③その他 ④平成29年度会計監査
第１回支部役員会 30年５月12日(土) 午前10時～ 会場：文系総合研究棟 306教室	**報告事項** **協議事項**	平成29年度仙台支部事業報告・会計決算報告 ①平成29年度仙台支部事業報告・会計決算報告の承認 ②平成30年度東北支部事業計画・支部会計予算案 ③平成30年度第37回総会時講師について ④平成30年度東北支部総会について　⑤「会報22号」発行について ⑥役員改選(事務局・年度理事改選)について ⑦東北支部での会員増について　⑧その他
第２回支部役員会 30年８月18日(土) 午前10時00分～ 会場：文系総合研究棟 306教室	**協議事項** **連絡事項**	平成30年度東北支部第２回(仙台支部第39回)総会について ①講演会講師・演題の確認　②総会・講演会・懇親会における理事の役割分担 ③第３回支部役員会における理事の役割分担　④その他(各委員会～)「会報22号」発行 ①支部総会案内状・会報・会費納入振替用紙等の発送事務10月６日(土) ②第３回支部役員会の日時と協議事項・連絡事項
教育学部同窓会東北支部 **第2回(仙台支部第39回)** 30年11月10日(土)13時～ 会場:文系総合研究棟大会議室	**総　会** **講演会** **懇親会**	①平成29年度事業報告及び会計報告について ②平成29年度会計監査報告の承認について ③平成30年度事業計画及び会計の中間報告について 講師・演題 宮腰英一氏「比較教育学を目指して:英国のエアリアスタディを中心に」 (会場 文系総合研究棟中会議室 15：15～17：30)
第３回支部役員会 31年１月６日(土) 午後５時～ 会場:ホテルJALシティ仙台	**報告事項** **協議事項**	①東北支部第２回(仙台支部第39回)総会会計報告 ②平成30年度東北支部事業・支部会計中間報告 ①東北支部第１回(仙台支部第38回)総会の反省事項 ②平成30年度東北支部事業計画・会計予算案について ③役員会・総会の持ち方について ④東北支部第３回(仙台支部第40回)総会日時の確認

平成30年度 東北大学教育学部同窓会東北支部会計予算(案)

Ⅰ　一般会計

平成30年４月１日

1．収入の部

(△ 前年度予算額との比較減 単位:円)

	前年度予算額	今年度予算額	比　較	備　考
会費	260,000	270,000	10,000	会費270名分
繰越金	285,246	271,984	△ 13,262	前年度繰越金
雑収入	254	1,016	762	懇談会祝儀、利子等
合計	545,500	543,000	△ 2,500	

2．支出の部

(△ 前年度予算額との比較減 単位:円)

	前年度予算額	今年度予算額	比　較	備　考
事務局費	100,000	210,000	110,000	
①印刷費	60,000	70,000	10,000	印刷、コピー代等
②消耗品費	10,000	10,000	0	用紙、インク代等
③備品費	2,500	7,500	5,000	文具、ソフト代等
④事務手当	25,000	25,000	0	事務手当
⑤通信連絡費	0	95,000	95,000	※総会・役員会案内等
⑥雑費	2,500	2,500	0	送金料、印字代等
会費振込費	30,000	30,000	0	会費振込手数料
会議費	50,000	50,000	0	役員会他
通信連絡費	100,000	0	△ 100,000	※
会報費	75,000	75,000	0	
①印刷費	65,000	65,000	0	会報印刷代
②会議費	10,000	0	△ 10,000	※
③通信連絡費	0	10,000	10,000	※原稿依頼、会議案内等
総会費	60,000	60,000	0	
①会場費	20,000	20,000	0	会場使用料
②表示関係費	5,000	5,000	0	表示作成費
③装飾費	5,000	5,000	0	
④講演会費	30,000	30,000	0	講師謝礼、車代
慶弔費	10,000	10,000	0	弔電代等
雑費	10,000	10,000	0	手土産代等
予備費	110,500	98,000	△ 12,500	旅費、卒業祝賀会費
運用基金	0	0	0	
合計	545,500	543,000	△ 2,500	

Ⅱ　運用基金

前年度繰越900,000円＋収入0円＝差引残高900,000円(郵貯銀行へ定期預金)

同窓会仙台支部総会講演 平成29年11月12日(要約)

「東北大学教育学部の歴史について」

講師：東北大学名誉教授　佐々木徹郎 氏

本日は二つのことをお話します。

その第一は「社会専攻の歩み」（電子版）の紹介です。（編集部注:以下、スクリーンを通しての講話）これには社会専攻の歴史・教職員・「教師の社会的地位」等の共同調査活動の紹介、大学院を含むすべての卒業生・専攻に関する資料が入っています。

さて、講座や専攻ごとに、文書・写真等の資料を集め、それぞれの「講座、専攻の歩み」をWEBで作ってみようではありませんか。印刷しないので費用はほとんどかかりません。内容量はほとんど無制限です。内容の入れ替えも自由です。Internetを通じて配布できます。ただ、公表の場合、privacyに留意することが必要です。

第二に、「東北大学百年史」のなかの教育学部の部分の問題点についてお話します。

昭和24年５月に設置された教育学部について、100年史に「教育学部は宮城師範学校を包摂して成立、その結果、前期二年課程は、旧師範学校の教育教養部で行い、後期二年課程は片平丁の教育学部で行う教育体制となった。」（100年史375頁）とあります。昭和24年５月に整備されたのは、前期二年だけです。この段階では講座制学部は生まれていません。学部の発足という場合、講座が設置され、教官・事務官が任命され、事務室が整い、学生が入ってくることを意味します。

片平丁の講座制の教育学部が発足したのは、昭和26年４月１日です。この日教育学部には新しく教育哲学講座・教育社会学講座・教育心理学講座・発達心理学講座が設置され、ほかの学部と同等の学部として発足しました。また教授会がおかれ、大学院を設置することができるようになりました。ちなみに私もこの日、教育社会学講座の講師に任命されました。

昭和26年４月１日が教育学部の歴史において、きわめて重要な日であることは、100年史のどこにも記述されておりません。100年史の編纂に従事された方々にはこのことが認識されていなかったと思われます。そのための誤りが見受けられます。

100年史のもう一つの問題は、学部の教員養成についてであります。宮教大が分離独立する前、教育学部に教員養成一年課程・二年課程・学部の学校教育学科第一部・同第二部があり、小学校、中等学校等の教員養成をやっておりました。教育学部としていろいろ工夫をしました。教科の教育はほかの学部や大学に任せるとか、学校教育学科の学生の生活指導に教育学科の教官が参加するといった仕組みを考えました。旧帝大で教員養成を行った例はほかにはありませんので、このことは歴史的に貴重な例で、100年史に記述すべきだと思います。

以上のように「東北大学百年史」の一部である教育学部の100年史にはいろいろな問題があり、改定した100年史を作成することが望まれます。

カット：石森幸子（29年入学）

講師プロフィール

宮腰英一氏　東北大学教授（教育学研究科）
昭和28年９月１日生（65歳）
最終学歴　昭和57年３月（東北大学大学院教育学研究科博士後期課程単位修得退学）
昭和58年４月　東北大学教育学部　助手
昭和61年４月　講師
平成元年４月　助教授
平成10年２月４日　博士（教育学）（東北大学）
平成10年11月　教授
平成12年４月　東北大学大学院教育学研究科教授（教育政策科学講座）
平成19年４月　東北大学教育研究評議会　評議員（併任）（平成25年３月満了）
平成21年４月　東北大学大学院教育学研究科研究科長・学部長（併任）（平成25年３月満了）
平成22年10月　私立学校審議会委員功労者文部科学大臣表彰
平成25年４月　東北大学大学院教育学研究科教授（教育政策科学講座。比較教育システム論分野担当）現在に至る。

《会費納入のお願い》

年会費 1,000円

平成30年度分の会費納入のお願いです。現在会報等の発送をお願いしている業者のメール便に対する規制が変わり、総会案内や会費納入のお願い等の文書を同封できないことになってしまいました。会報の内容として組み入れなくてはならないことになりましたので、会報の構成を変えることになりましたが、会員の皆様の会費納入方法は変わりません。

同封の振り込み用紙をお使いいただき会費をご納入ください。

なお、振込用紙を使っていただくと、本会で手数料を負担することになりますので、総会・講演会・懇親会参加の際にご納入いただくと手数料が不要になって助かります。

カット：石森幸子（29年入学）

フォトアルバム（1）

昭和42年度 東北大学日就寮寮祭翌朝の記念撮影（各学部３～４年生）

余　　滴

今を去る53年前、私たちが２年生の春、片平構内の喫茶「ルーエ」で、法学部２年生６名から次のような誹謗を受け面罵された。「君たち教育学部の学生を我々と同じ東北大学の学生として対等に扱うには少なからず抵抗がある。入試の合格最低点が法学部に比べ100点低く、教育学部生は皆見るからに頭が悪そうで、ただ嫌悪を催すばかりである」。

ここまで言われたならばと、私も彼らを前にはっきりこう言い切った。「人権の尊重、平等を旨とする学問の府において、この差別的発言は赦されない。大学のあり方や運営は法律や内規によって定められている。特定の学部の学生の資質に問題があるとするならば、関連の教授会に入試のあり方を糺すなど論理的な方法に訴えるべきである。なお東京以西で東北大学の理・工・医学部は知られているが、教育学部の存在、ましてや教育学部入試の最低点が特段低いなど下らぬ情報を誰が預かり知るというのか。」この程度では溜飲が下りず、私はとっさに次の「お仕置き」を思いつき実行した。

「ここで秀才である君たちの力量をぜひお見せいただきたい」と彼らに紙と鉛筆を配り、入試問題数題を解くよう迫った。

当時の関東の私たち受験生仲間の間では、入試の専門誌「大学への数学」の特集に収載された超最難50問を解法から解答の数字の詳細までマル暗記し、類推の力で難問をこなすやり方が流行っていた。

こうした難問を件の法学部生に示したが、手も足も出ず、誰一人満足に解ける者はいなかった。

次に英語の問題を出した。有名な訳出至難の英文の解釋の問題である。

彼らは逃げるに逃げられず、皆青くなって身動きすらしなかった。私は偉そうにも、「思い上がって、人を見下し、見くびり、人をいじめて喜ぶ習癖は愧ずべきである。学問を学ぶ以前の人間として、すでに失格である。」と凄みを効かせて叫んだ。

しかし、こうしたやりとりを経て、以後、彼らと我々との間には微妙に親しい人間関係ができていった。その数年後の私の結婚式の司会進行は法学部出の彼らがとり仕切って進めてくれたのである。

（編集子）

フォトアルバム（2）

昭和39年８月
合宿（陸中海岸）（1～４年生）

昭和40年５月
大学祭仮装行列（２～４年生）

昭和42年10月　奈良見学旅行（唐招提寺）
（教育・文学部３～４年生）

教育学部同窓会事務局だより

本部同窓会事務局長　神谷　哲司（Ｈ２年入学）

今春より大学院教育学研究科が新たな体制となり、本部同窓会も、多様な学生会員のみなさまを迎えることとなりました。同窓会事業といたしましても、従来の(1)卒業・修了学生の祝賀会援助事業、(2)現役学生への海外学会発表渡航費援助事業、(3)仙台支部寄附金による博士論文執筆援助事業、(4)「キャリア支援セミナー」に加え、今年度からいよいよ(5)卒業研究学会発表援助事業と、(6)学部生学会参加費援助事業を本格的にスタートすることとなりました。

また、会員のみなさまにもご活用いただける事業として、同窓会の縦のつながりを深めていくことを目的とし、新たに、会員相互交流促進支援事業が始まりました。同期会や現役学生との交流のご希望などございましたら、その規模は問いませんので、ぜひともご相談、ご応募ください。申請書等は同窓会ウェブページにございます。

なお、同窓会事業のひとつに、会員の名簿作成・管理があります(会則第３条(1))。冊子体形式の名簿については、個人情報保護の観点からさまざまな意見が寄せられる昨今ではありますので、慎重に議論を進めてまいりたく思いますが、一方で、教育学研究科・教育学部のウェブサイトにある名簿登録ページを通じて、現在の連絡先をお知らせいただいている会員のみなさまもいらっしゃいます。それらの方々を対象に、名簿取扱い規約に則り、より積極的な広報活動を進めていくこととなりました。名簿の登録がまだという方におかれましては、ぜひとも、同窓会ウェブページにてご登録をお願い申し上げたく存じます。

インターネットやSNS等の技術革新によって、同窓会組織も新たな形態へと進化してまいります。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

（事務局アドレス：sed-alumni@sed.tohoku.ac.jp）

フォトアルバム（３）

昭和41年８月
研修旅行（２～４年生）

昭和42年10月
工学部青葉山移転に反対し、福島教授に
迫る自治会執行部（教育・法学部３年生）

昭和43年２月
年度末のお炊き上げ（川内東分校）
（３～４年生）

仙台支部役員名簿

（平成29. 11. 10～平成31総会時）

顧　問	25	髙橋　公正	26	佐々木一洋
	28	永野　昌一	31	雪江　美久
	36	岡﨑　忠	36	阿部　琢也
	37	關口　隆	大学	高橋　満
支部長	39	渡邉　宣隆		
副支部長	39	軍司　啓	39	鹿野　毅
	50	吉川　邦彦		
参　与	24	富塚　英雄		
〃	29	石森　幸子	31	枡澤　怜
〃	32	佐々木亀三郎	33	佐藤　健仁
〃	35	伊藤　昭	39	大浪　榮一
〃	元学部長	菅井　邦明	元学部長	菊池　武剋
〃	元学部長	荒井　克弘	元学部長	細川　徹
〃	元学部長	宮腰　英一	元学部長	本郷　一夫
理　事	24	佐藤　弘		
〃	25	髙橋　公正		
〃	26	池田　和夫	26	三浦　貞昌
〃	27	青木　敏浩	27	阿辺　博亮
〃	28	小關　幸生	28	桂島　新一
〃	29	市川　宏		
〃	30	千葉　俊雄		
〃	31	今野　健	31	福井　正子
〃	32	煤田　泰蔵	32	村上　重作
〃	32	竹澤錬太郎		
〃	33	金岡　昭房	33	氏家　正好
〃	34	工藤　忠久		
〃	35	泉　豊	35	岡本　幸子
〃	36	小野　惇夫		
〃	37	賀屋　義郎	37	中川　典雄
〃	38	文屋　優	38	文屋　國昭
〃	39	光井　正	39	太田　將勝
〃	40	吉野　信武		
〃	41	安住　裕	48	櫻田　博
〃	50	別府　成裕		
〃	51	日下　毅	51	佐藤　邦宏
〃	52	白澤　利広	54	南城　一之
〃	57	川上　芳夫	H 4	吉植　庄栄
監　事	40	吉野　信武	大学	青木　栄一
大学理事		後藤　武俊		

事務局・各委員会

事　務　局

事務局長	39	軍司　啓
事務局補佐	37	關口　隆

会則検討委員会

委員長	31	枡澤　怜
副委員長	31	今野　健
委　員	28	桂島　新一
	39	軍司　啓

名簿作成委員会

委員長	33	金岡　昭房
副委員長	35	泉　豊
委　員	25	髙橋　公正

会報発行委員会

委員長	39	太田　將勝		
副委員長	39	光井　正		
委　員	38	文屋　優	50	吉川　邦彦

会計委員会

委員長	32	坂野　優子
副委員長	41	鈴木きよ子
委　員	39	岩井　良樹

後　記

原稿をお寄せいただいた方々と会報発行委員のご協力で今年度も会報の発行できましたことに感謝申し上げます。

第２回役員会後に年度理事の方の急逝の報が入るなど、会員の高齢化の進んでいることを感じる今日この頃です。

会員の方々の健康長寿を心からお祈り申し上げます。

事務局

〒982-0262 仙台市青葉区西花苑２－７－18

軍司　啓　TEL 070-5322-3322